

## 《研修報告》質問力・議会力レベルアップ講座

「政策議会」としての自治体議会と政策資源としての一般質問

会場：アットビジネスセンター池袋駅前別館

主催：(株)地方議会総合研究所

[研修目的]一般質問は、議会で行政に問いただすことのできる、すべての議員に開かれた機会である。にもかかわらず、自己流で行われ、機械を十分に生かすことができないことも多い。ひとりひとりの議員の「質問力」を高めることは、議会力を高めることにもつながる。問題意識が伝わる質問の構成力を学び、市民にとって生かせる政策資源となることを目指す。



平成 30 年 3 月 30 日(金)10:00～17:00

講師 土山希美枝 龍谷大学教授

政治学博士。龍谷大学政策学部教授。

著書「市民と自治体の協働研修ハンドブック」「地域公共政策を担う人材育成」「対話と議論で〈つなぎ・ひきだす〉ファシリテート能力ハンドブック」

### 1. 〈政策・制度〉と自治体

#### (1) 都市型社会の〈政策・制度〉

##### ・議会の在り方

政策に議会がどう関わるかの大前提は、現在の生活がインフラの整備された都市型社会であることを踏まえる。公共政策はみんなのためにある。日常の市民生活は一つひとつの政策（一定の約束事）に基づいている。都市は、政策や制度がネットワークされている。資源、ペットボトルの回収はわかりやすい例である。

##### ・政府の重要な役割

市民生活を政策や制度で支えられている。政策や制度のネットワークは様々な担い手がいる。できないことを担うのが自治体の役割である。

事業の集合→施策の集合→政策（一つ一つの事業もミクロの政策）

自治体は必要不可欠な事だけやる。（シビル・ミニマム）

### 2. 政策議会とはなにか

#### ・いい政策制度（信託の成果物＝首長と議会の成果物）

市民は、国・県、首長・議会に判断を任せているが、白紙委任ではない。課題は無限、資源は有限の条件下で、政策効果が高いことが求められる。

市民のニーズは多様である。すなわち正解はない中で議会はベターな状態をつくる役割を果たす。（議論して結論を出す）

・議会からの政策立案、提案は細くなっている。市民から見えないので、行政だけがやっているように見えてしまう。議案の修正は市民に見える所で行うようにしたい。しかし、行政は間違わないという考え方から修正を公に指摘しない社会通念が強い。



- ・結論サンドイッチ
- ・論点整理・・・事実（誰でも共有できる）いくつでも箇条書き  
意見→分析（言えること）  
主張（事実と分析から）＊その主張がわが町に必要な不可欠である
- ・わがまちの状況からビルドアップ（これだけは引き出したい60%ラインを考える）
- 8. 機能する一般質問のために
  - ・問題意識の共有（答弁調整は質問の意図が伝わるまで）
  - ・議場の共感（議会内）世論
  - ・結論サンドイッチ・・・簡単なほうがわかってもらえる
  - ・共有し納得を得る「議論という対話」
- 9. 政策議会の資源としての一般質問
  - ・一般質問を「議会ひとりぼっち」にしない  
関連質問…わがまちに不可欠なものを議会でコントロールする（チーム力でサポート）  
＊申し合わせ事項、質問者の支持質問とする
  - ・一般質問を「議会みんなのもの」にする  
議会として取り上げる→委員会の所管事務調査
  - ・議会報告会の活用→ワールドカフェ等で質問の素材がでるような対話型にする
  - ・議会だより→今議会のベスト一般質問！等
  - ・一般質問の「その後」追跡→議会だよりに掲載する
- 10. 政策議会の一般質問
  - ・議会が「信頼を得る」
  - ・一般質問の再定義  
議員ルートの政策資源という位置づけ。政策・制度の制御の可能性を探る

#### [研修所見]

市民のニーズは多様である。正解はない中で議会はベターな状態をつくる役割を果たさなければならない。

議会報告会の目的は、市民と公共の関係をつくる。また、対話することで、議員の人柄を見て市民が自分の代理人を見つける。来た甲斐がある場にするためには、テーブルセッティングやカフェ方式等の工夫と同時に、参加者の問いかけにどれだけ向き合えるか、また、生かせる仕組みがあるかに大きく関わることがわかった。

現状の議会活動に少し角度を変えた視点を持つ事で、市民の動き方が変わる可能性があると思われる。

一般質問を議会の政策資源としていくことで、市民からの信頼を得ることができる。

そして、議会があるからより良い状態にキープされると市民に思ってもらえるように議会報を作ることも重要である。